

## 普及活動情勢報告（平成 26年 5月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

### J A土佐くろしおインゲン部会が現地検討会を開催



インゲン部会の現地検討会を4月23日に開催し、7名が参加しました。今年度に取り組んでいるスワルスキーカブリダニを用いたIPM技術について説明を行い、現地の成果を生産者に確認してもらいました。また、実践している生産者との意見交換も行いました。参加した生産者は、スワルスキーカブリダニを初めて見る農家が多く、熱心に観察していました。また、コナジラミ類が全く居なくなっている現状と、使用した薬剤の少なさに感心もしていました。

今後、勉強会も行い、部会に情報提供を行っていきます。

### 後作オクラの現地検討会を開催



4月25日、須崎管内にて後作オクラの現地検討会を開催し、9名が参加しました。

これからの管理として、着果の促進を促す管理が重要であること、ハウス内は高温になりがちで30℃以上にすると花芽形成に影響があるため温度管理に注意することなどを説明し、周知を行いました。参加農家からは、直ぐに気をつけサイド換気などを実践したいと声がありました。

播種の早い分のオクラ出荷が始まっていることから、安定出荷につながるよう引き続き現地指導を行っていきます。

### オクラ出荷始め総会及び後作オクラ目慣らし会を開催



4月25日、オクラ出荷はじめ総会および目慣らし会が開催され、15名が参加しました。

J A土佐くろしお営農課から管内では後作オクラの出荷が遅くなっている傾向があること、振興センターからは、栽培期間の農薬適正使用について周知を行いました。出荷にあたり果実品質については参加者で確認しあい品質を維持しようとの声が聞かれました。

農薬の適正使用については、J Aと協力しながら指導を継続します。

### おのおみエコロジーファーマーズ（中土佐町）が総会を開催



4月28日、集落営農組織「おのおみエコロジーファーマーズ」の総会が開催されました。組織は大野見米のブランド化に向けて特別栽培米の生産販売を行っており、販売量は年々伸びています。総会では協議事項に加え新たな販路や機械導入についても検討されました。振興センターから水稻の栽培暦の修正や‘にこまる’の品種特性について説明しました。今後は、品質向上への栽培指導とともに販路拡大への支援も行います。

### J A土佐くろしおハウスシトウ部会が現地検討会を開催



ハウスシトウ部会の現地検討会を4月30日に開催し、15名が参加しました。

今年度の現地試験の経過報告や今後の栽培管理等について説明しました。CO<sub>2</sub> 施用試験については良い結果が出ており、結果を見た生産者の一部からは来年度実際にCO<sub>2</sub> 施用を行いたいといった声があがっていました。

また、節油対策の一環として導入が進んでいるヒートポンプについては、より効果的な設定温度について説明を行いました。しかし、生産者の間ではヒートポンプを使用するにあたり不安が拭えず、さらなる調査を望む声が出ており、来年度も継続して調査を行い、部会に情報提供を行います。

### 青果物流通、販売戦略に関する講演会を開催



5月9日に開催された須崎市認定農業者連絡協議会第12回総会の終了後、振興センターが青果物流通と量販店等の販売戦略に関する講演を行い、19人の認定農業者が参加しました。

高知県の園芸作物がどのような手順で販売されているのか、また都会の量販店がどのような販売戦略を展開しているのか等、生産者が日頃接する機会の少ない内容に対する参加者の関心も高く、「もっと詳しく聞きたい」といった意見も出されたことから、今後も状況に応じた情報提供を行います。

### J A津野山甘長トウガラシ新規栽培者を対象に栽培講習会を開催



J A津野山宮農センターで、甘長トウガラシの新規栽培者を対象に、栽培講習会を5月14日に開催し、9名の生産者が参加しました。

基本的なトウガラシ類の特性や主な作業について説明しましたが、生産者は、初めて栽培するため質問が思いつかない様子だったため、栽培ほ場での生育や病害虫の観察を実施することが重要と指導しました。

今後、新規栽培者には現地検討会や個別巡回指導で栽培管理を周知します。

### 直販所出荷者向け農薬使用履歴記帳説明会を開催



管内の直販所(12店舗)で構成する「農産物直販所安全安心ネットワーク」を平成25年7月に設立し、安全安心への取り組みを進めています。今回、量販店内の直販所に出荷する生産者を対象とした農薬使用履歴記帳説明会を5月15日に開催し、約100名が参加しました。振興センターからネットワーク設立の経緯と今後の活動方針等について、J A土佐くろしおからは具体的な記帳方法について説明しました。参加者からは、除草剤の扱い方や長期間収穫出荷する作物の記帳方法等について質問がありました。今後も、他の直販所も含めて取り組みを広げていきます。